

№ 3 「広報事業」 「シティプロモーション事業」

担当課	(資料に基づき事業説明)
小委員長	「広報事業」のP29「事業費」について、平成21年度のところが「0円」となっているが、これは何か他の事業の中に組み込まれていたもので、「0円」になっているということなのか。
担当課	他の事業と統合しているが、この部分は記載漏れかもしれない。
委員	P29に、平成22年度から平成24年度の事業費の記載があり、平成23年度から平成24年度になると総事業費が2倍に増えているが、倍増している理由は何か。
担当課	コストの増えた分は、システム使用料が増えている。人件費については、平成22年度は計上漏れかもしれない。
小委員長	平成22年度以前について、誰も職員が関わっていないのはあり得ない。何かしらのコストは発生していたと思う。担当が増えたということかもしれないが。
担当課	人員体制としては、平成23年8月から正規職員1名、嘱託職員1名となっている。以前は正規職員2名体制であった。
委員	総合案内冊子、市政要覧は何部作ってどのように配布したのか。
担当課	総合案内冊子の発行部数は、平成23年9月に2万5千部発行し、広報たがわの10月1日号と一緒にに入れて配布している。市政要覧は、増刷しており、平成24年の3月に千5百部増刷している。これは、主に市外在住の方向けで田川市の資料がほしいという方、関係機関の方に送付するという形で使っている。平成24年の9月現在で、千5百部増刷した分で5百部使って、今現在、千部残っているような状況。
委員	広報発行のコストはどれくらいか。
担当課	1回あたりのコストは49万2千円となっている。
委員	月100万円近いということか。
担当課	そのとおり。
委員	広報紙を読むと市の情勢がよく分かる。そこで、「広報事業」と「シティプロモーション事業」の違いを市民にどのようにPRしているのか。
担当課	広報紙は市民に対して、行政のことから申請や手続き行事などをお知らせし、情報提供している。一方、シティプロモーション事業は、田川市の魅力を知らない方には特に知っていただき、一緒に全国に発信していただくという形にしている。
委員	その違いを市民が周知して、これが「シティプロモーション事業」と「広報事業」の違いだと分かり、市民として「できること」と「しなければならないこと」という意識を市民が持たなければ広がらないと思う。その違いを市民にアピールしながら、このような2本立てで日本全国にPRしていくというような行政として、市としての意気込みを市民に知らせるべきではないか。そのためには理解度をどう広げていこうと考えているのか。
担当課	案で説明した戦略プランのような分かりやすいものを作って、市民ファンクラブのような力を借りて、みんなでPRしていくような仕組みづくりを検討しているので、それを合わせて周知していきたいと思っている。
委員	広報紙について、P30の担当課としての評価について、「民間による執筆コーナーを設けるなど、徐々に民間による発行への移行を検討すべき」ということが書いてあったが、広

	<p>報紙の内容や配布方法についての検討は、現在、どこでどんなふうに、どの程度進められているのか。</p>
担当課	<p>民間による執筆コーナーというのは、より身近に読んでいただくためには、そのようなことも必要ではないかという意見であって、具体的なことは進んでいないが、今後そこを視野に入れていく必要があるのではないかとこのところ。配布方法については、現在は行政区を通じて、区に加入している方に配布している。区に未加入の方については、郵便局、駅、コンビニエンスストアなどに置かせていただいて、全戸配布を目指している。行政区にもかなり協力していただいて配布しているところであるが、区の加入促進、コミュニティにつながっているということで、区長会等で数年にわたって協議をしているが、現在は6月に行政区の方が新体制になっているので、具体的な加入促進の協議会を立ち上げ、加入促進にかかる課題や問題点解決策を挙げていただくようにしている。そこと擦り合わせをして、行政区として配布した方がよいのか、委託等で全戸配布がよいのか、改めて検討するようにしている。</p>
委員	<p>配布する時には経費はかかっているのか。1回のコストが49万2千円ということだが、この中には配布に関する経費はないのか。</p>
担当課	<p>それは、発行、印刷にかかる経費であり、配布に関する経費ではない。行政区を通じて配布しているので、行政区担当課の方での手当等があり、行政区としての活動費用となる。その中に含まれている。</p>
小委員長	<p>行政区を通じて配布するという部分については、昨年度の事務事業評価の対象となっており、そのような部分で経費は掛かっている。</p>
担当課	<p>担当課から聞いている金額だが、区長手当てが毎月8万円と400円×世帯数、中間連絡員が14,700円と30円×世帯数、組長が4,300円と540円×世帯数となっている。中間連絡員については、976,650円×年2回、組長については、7,219,480円×年2回が全体の経費となっている。</p>
委員	<p>P30では、民間による執筆コーナーを設け、民間による発行の移行を検討し、下のグラフの「公共関与の必要性」も低めに考えられているようだが、今後の田川の課題として行政と民間の壁の隔たりを崩していって、協力していかなければならない中で、広報紙というのは、行政の考えを明確に市民に伝えていくものであると思う。単に民間を入れてしまって新聞のように、偏った情報になってしまうのではなく、明確な行政の情報を伝えていくのが広報紙の役割だと思う。民間の人たちの執筆コーナーなども入れて、関心を持っていただくという手法は色々あると思うが、行政としてのスタンスは崩さない方がいいと思う。それから、広報紙はカラーで立派すぎるのではないかな。もう少しコストを下げても広く配っていくことを視野に入れて検討してほしい。田川市のホームページに関しては、高齢者、初心者にとっても検索しやすいように改善してほしい。「シティプロモーション事業」については、漠然とした方向性のみであり、これを明確にしないと相手に伝わりにくい。特に人づくり、ものづくりは他部署との連携が必要。</p>
委員	<p>「シティプロモーション事業」について、現在シティプロモーション戦略が出来上がっていて、具体的な事業自体は各課でやっており、それを統括するのが「シティプロモーション事業」ということなのか。</p>
担当課	<p>そういうことで考えている。</p>

委員	そうすると、それぞれの課でイベントを開催したり、人材のための研修、情報の発信等、プロモーションとしての事業規模はどの程度になるか。
委員	今の質問と関連するが、実際に何をやるのかが、よく分からない。基本方針を策定するということがこの事業だと思うが、事業としてどこからどこまでやっているのか。
委員	各部署がやってきたことをまとめたプロモーションなので、何を中心にやっているのかという部分が見えてこない。方向性を打ち出したうえで、商品売っていくということになると思うが、漠然と各部署で商品売るとかプロモーションして相手に伝えられるのかという何も伝わらない。何となく「田川のキャラクターは、たがたんだ」という程度しかないと思う。ブランドのデザイン化をどこがやり、どのような形にして1つの目標に向かって取り組むということがビジョンである。企業においても行政においても、ビジョンを明確にして具体化して発信していかなければ、恐らく内部の方も外部の方も分からず、時間だけが過ぎていくのではないか。
担当課	第5次総合計画では、新しく宅地分譲が始まったり、畜産化ブランド事業、企業誘致、観光商品開発事業、世界記憶遺産PR事業、市民参加まちづくり事業など、進める事業があったりして、それぞれが大切な事業だと考えている。どこの方向性を向くのかというのは、本日提示したものが漠然としているが、そこを明確にして第5次総合計画でやっていく事業は、同じ方向を持ってやっていくということを基本計画の中で明確に作っていかうと考えている。そのために各関係課と一緒に、どのようなブランドにするのかについての基本計画を作っている段階なので、現段階では明確になっていないが、そこを目指して策定するように予定している。
小委員長	「シティプロモーション事業」について、中身はこれから詰めていくということだが、先程の説明では市民の方の暮らしや市民の方に関する情報提供が「広報事業」ということだったが、P36の「目標1」では、市民の方向けのメッセージが入っている。確かにシティプロモーションをするうえで、市民の方が愛着と誇りを持つということはベースになり、重要なことだと思うが、今までの説明では、これが「目標1」になっているというのは、若干違和感がある。「目標2」で「地域ブランドの認知度アップ」と書いているが、ここで言う地域ブランドが何なのか全くよく分からない。ここでの地域ブランドは、どのようなことを想定しているのか。
担当課	パブリカ、金川牛、お土産品の開発を含めたブランド化をして認知度をアップすることを考えている。
小委員長	それは、どちらかというと「特産品」というイメージになる。「田川のキャッチフレーズ」のようなものではなく、地域ブランドは「特産品」というイメージなのか。
担当課	そう思っているが、目標自体も案なので協議しながら改善していきたい。
小委員長	例えば、P37の概要のところを見ても、「目標1」に「市外住民に対して、田川市の魅力（豊かな自然、買い物の便利さ・・・）」と記載があるが、これらはデータなどで裏付けをして、「他市と比較してこれだけ田川は魅力的である」ということを担当課として証明できているという理解でよいのか。総合政策課でこのようなことを書く場合は、きちんとした裏付けを行い、例えば糸島市、大野城市、豊前市、行橋市など様々なところと比較したうえで、示していかなければアピール力はないと思う。そのような作業はやっているのか。

担当課	実際には個別の事例しかないが、例えば今回売り出している平原住宅団地のキャッチフレーズで、「自然が豊か、保育所へ行く際の費用の助成がある」などという田川市独自の紹介は事業の中でやっている。
小委員長	観光で訪れる方にとっては、そのようなイメージでよいと思うが、移住や企業進出をしていただく場合は、莫大なお金をかけて比較を行うという中にあり、本当に戦略的に田川を売り出していくには、きちんとした裏付けのあるような情報を示していくことが、イメージ戦略のベースとなる部分なので、裏付けを取ることが必要となる。今後の取組にあたっては、そのようなところを検討してほしい。このような戦略を委託せずに手作りで行っているということは、コストの削減にはつながっていると思うが、独特のノウハウを持つようなシティプロモーションでは、マスコミをどのように活用していくかという視点は欠くことができないと思うが、広告代理店のノウハウ等を活用していく検討などは行っているのか。
担当課	民間のそのようなところについては、まだ検討していない。実際は、シティプロモーションを手がけている自治体に連絡して情報を入手している状況。
委員	田川のグランドデザインは、どうなっているのか。具体的なPR項目を決めて、商品の魅力や機能を全面に押し出していかなければ、商品は売れない。決まっていなければ作っていかなければならない。広域観光協会と連携していると思うが、観光の視点だけでなく、産業、教育など様々な視点から、田川をどのようなまちにしていくのかというグランドデザインを策定するにあたって、民間と1つの会議体なりを作っていかなければ、行政だけで話し合っても民間の協力は得られないのではないかと思う。民間と協力して将来の方向性を作っていくべきではないかと思う。商工会議所等に民間のノウハウを持っている人はいると思うので、今後このようなことを事業に追加してはどうか。
委員	P 3 3 の予算について、今年度（H 2 4）委託料がついているが、これは何の委託料になるのか。
担当課	これは、キャラクターの着ぐるみ作成委託料とホームページの委託料となっている。
委員	平成24年度の予算で委託しているのか。表を見ると平成23年度の実績で、キャラクターデザインと書いているが。
担当課	どのようなキャラクターにするかというデザインを全国から公募して、平成23年度に現在の「たがたん」の絵になった。それを着ぐるみとして作成したのが平成24年度となっている。着ぐるみは2体作成しており、1体約50万円で100万円掛かっている。
委員	「たがたん」の著作権に関しては、田川市にあるのか。
担当課	そのとおり。
委員	熊本の友人が「くまモン」の時計なども作っているが、そのように民間との連携をすると、もっと効果がでると思う。
担当課	そのように考えている。当然著作権等もあるが、田川市に帰属しているので、例えば、民間の方で「たがたん」のストラップ等を作るということであれば、無償で広めてほしいと思っている。
委員	シティプロモーションについて、P 3 6 の目標3つを市民に分かりやすくするために、もう少し内容を具体的にしていくべき。「地域ブランドの認知度」というのは一体何なのか。

	<p>「地域ブランドはこのようなものである」という具体的な説明を加えなければ、市民は理解できないのではないかと。PRしていく時は、市民に分かりやすい言葉、何を提供しているのかということを入れていくと市民も納得するのではないかとと思う。</p>
担当課	<p>基本方針の案の段階で提示して申し訳ないが、この外部評価で意見をいただきましたかったのが事実。いただいた意見のように、はっきりと分かりやすく1つの目標に向かい、可能なことを田川市としてやっていかなければならないが、取り掛かれることから明確にして、市民と協力をしながら分かりやすく1つの方向に向かえるよう、作成したいと思う。</p>
委員	<p>【評価内容に関するコメント】「2見直し(2)事業内容、手法の見直し、④対象の見直し、⑤手段の追加、改善、⑥設定の目標の見直し」とした。まず「広報事業」については、「民間執筆コーナー」というより、「市民執筆コーナー」の方がよいのではないかと。先ほどの説明では民間委託の話になり、よく分からなくなったが、広報紙の発行については、当面は市で行い、市民が執筆できるコーナーを作る方がよいのではないかと。次に、事務事業シートの「事業概要」の部分に広報紙のことしか記載されていない。広報紙は、高齢化率が高いので紙ベースも重要だが、「広報事業」は広報紙だけではないので、もう少し広報事業全体が分かるデータを載せてほしい。3つ目に、「広報事業」についても、「シティプロモーション事業」についても、目標は抽象的で広いが、事業が狭くてつながっていないということがあるのではないかとと思う。特に「シティプロモーション事業」については、目標としては「本市への来訪や移住を行う者、進出等を積極的に行う企業の増加」と大きなものだが、実際の事業内容は着ぐるみ作成などと、ものすごく遠い気がする。「今後に検討」と言われるとそれまでだが、もう少し具体的に目標につながる方法を開拓してほしい。例えば、広報するにしても広報先は、「このような企業、団体、地域を集中的にこうしていく」という広報先の確定を進めてほしい。観光や産業関係の団体や事業所と連携していかなければ、なかなか広がっていかず、アイデアも出ないので、そのような意味で対象や範囲を広げて見ていく必要があるのではないかとと思う。事務事業だけの問題ではなく、総合計画自体の問題でもあると思うが、目標が非常に分かりにくい。例えば、都市イメージの向上については、どのようなイメージなのか中身が分からない。ものづくり産業都市のイメージを普及させるということについて、ものづくり産業都市とは何か、田川市で何を作っているのか分からない。ひと括りにはできないだろうが、目標を具体化してほしい。最後に、ホームページについても内容の改善、検索方法が分かりにくいところもあるので、その辺りの改善を行ってほしい。</p>
委員	<p>【評価内容に関するコメント】「1拡充(2)事業の手法、内容の拡充」とした。シティプロモーション事業の戦略プランを策定中ということだが、実効性を見ながら各課と連携をとって、マスコットキャラクターも大いに活用しながら頑張してほしい。具体的な「広報事業」が何であるか分からない。「シティプロモーション事業」で行っているのは、マスコットキャラクターができたということだが、出来上がったマスコットキャラクターを大いに活用して、実効性のある事業にしてほしい。</p>
委員	<p>【評価内容に関するコメント】「2見直し(2)事業内容、手法の見直し、④対象の見直し、⑤手段の追加、改善」とした。市民の力があって、市が発展していくと考えている。ものづくりということについても、市内の企業や業者と連携を進めていくことで、田川が潤っていくということが一番大事だと思う。そのような意味で、連携を強めていってはどうか。</p>

	<p>キャラクターについて、1体が50万円というのは初めて知った。高いか安いかにについては分からないが、キャラクターを行事があるときだけ使用するというのはもったいないと思う。小さい子供たちに田川のイメージを作っていくためにも、事あるごとに使用してはどうか。</p>
委員	<p>【評価内容に関するコメント】「2見直し(2)事業内容、手法の見直し、⑤手段の追加、改善、⑥設定目標の見直し」とした。「広報事業」については、目的とスタンスを明確にしたうえで改善した方がよいと思う。行政の情報を明確に市民に伝えていくためのものだと思うので、そこは曲げてほしくない。事業の追加という部分では、今後どのような田川にしていくかということで、民間との会議体というものを立ち上げていく事業が必要になってくると思う。ホームページについては、使いやすさの検証をしたほうがよい。この事業こそ官民が一体にならないければならない状況の中で、それをつなぐ広報事業が重要になってくると思う。</p>
小委員長	<p>【評価内容に関するコメント】見直しという評価で「シティプロモーション事業」については、「2見直し(1)事業の一部廃止」、広報事業については、「2見直し(2)事業内容、手法の見直し、⑤手段の追加、改善、⑧その他」とした。シティプロモーションをやっていくこと自体は非常に重要なので、これに関する事業はやっていかなければならないが、今の組み立てでは全く機能しないと思うのでゼロリセットすべき。民間団体、市民等を巻き込み一から構築して、また、構築するだけでなく実施をする主体に最初の策定段階から入ってもらわなければ機能しないと思うので、廃止してはどうかと思う。広報事業については、広報紙にしてもホームページにしても市民のニーズや満足度がきちんと把握できていて、その上で費用対効果も検証して効果的、効率的な取組をやっていくべきだと思うが、その部分が十分に取組まれていない部分があると思うので、市民ニーズの把握に努めてほしい。市外企業向けにも広報事業として取り組んでいる分は、シティプロモーションのほうに委ねて実施していくことが必要。</p>
まとめ 小委員長	<p>「見直し」という評価をした方が多かったように思う。「拡充」という回答をした方も含めて「広報事業」「シティプロモーション事業」は、重要な事業であるという部分は共通している。民間団体、企業、市民と連携していかなければならないということも共通した考えではないかと思う。非常に重要な事業なので、内容を十分検討して、より効果的なものになるように取り組んでほしい。</p>
担当課	<p>広報紙発行について、作成に関して委託するつもりはない。身近に親しんでいただくため、執筆コーナーなどを設けるという意味である。配布方法に関しては、行政区等と協議して、配布に関する委託は視野に入れることもあるかもしれない。事業シートを事業費ありきで作っているのので、「広報事業」を広報紙発行作成事業とシティプロモーション的なPR事業とは分けて、今後作成したいと思う。「シティプロモーション事業」に関しては、明確な基本計画を作成した後にマスコットキャラクターなどを作成すべきという認識があったので、本日の意見を参考に市民の方々と一緒に明確な基本計画を策定する努力をしたい。</p>